

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和4年度第1回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	令和4年6月24日（金）午後7時00分～9時00分
開催場所	西脇市役所 大会議室
出席委員の氏名 又は人数	平田富士男会長、藤原悟副会長、松尾憲子委員、藤井琢己委員、松山秀樹委員、森川元良委員、藤井裕子委員、清水賢一委員、野村直樹委員、濱崎美千代委員、藤原俊子委員、松本美千代委員、李貫一委員 計13名
欠席委員の氏名 又は人数	井上浩代委員
出席職員の職・氏名 又は人数	西脇市長 片山象三、都市経営部長 渡辺和樹、まちづくり課長 高瀬崇、まちづくり課主査 二若直也、まちづくり課職員 野村悟史 計5名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	—
議題又は協議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員委嘱</li> <li>2 市長あいさつ</li> <li>3 委員紹介（自己紹介）</li> <li>4 概要説明</li> <li>5 協議等             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 正副会長の選任について</li> <li>(2) 諮問</li> <li>(3) 部会の設置について                 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 部会での決定を審議会の決定とすることについて</li> <li>イ 部会員の指名</li> </ol> </li> <li>(4) 西脇市地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業について</li> <li>(5) 年間スケジュールについて</li> </ol> </li> <li>6 その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 参画と協働に関する意見交換</li> <li>(2) 今後の予定について</li> </ol> </li> </ol>

会議の記録（概要）

発 言 者	発 言 内 容 等
<p>市 長</p> <p>各 委 員</p> <p>事 務 局</p>	<p><b>1 委員委嘱</b> 市長から平田委員に委嘱</p> <p><b>2 市長あいさつ</b> 委員の皆様にはご多忙のなか第1回西脇市まちづくり推進審議会にご出席いただきお礼を申し上げる。 本日、谷川線に乗って、兵庫県庁で開催されたJRローカル線維持・利用促進検討協議会に出席したが、谷川線が生活に必ず必要な路線であることを改めて認識した。 ライフラインを守っていくには、地域が駅を守る取組が必要である。黒田庄地区では既にそのような取組を先駆的に行われている。まちづくり活動がその地域や子ども達を守っていく。 本日から審議いただく内容が、西脇市の未来に大切な議論になると考えている。 昨年度末には西脇市自治基本条例に基づく取組の検証について、貴重なご意見の詰まった答申をいただいた。市としては、いただいた答申を反映して、市と市民双方の継続的な努力による参画と協働のまちづくりの推進に、なお一層積極的に取り組んでいきたい。 今年度は、市民主体のまちづくり活動の更なる活性化に資する方策などについて議論いただき、委員の皆様から、それぞれの御経験に基づき、「参画と協働のまちづくり」を推進するための方策について、率直な御意見をいただきたい。 また、マイナンバーカードの取得について、未取得の方へのお声掛けをお願いしたい。</p> <p><b>3 委員紹介（委員及び事務局から自己紹介）</b></p> <p><b>4 概要説明</b> ・資料1に基づき、西脇市まちづくり推進審議会の役割等について事務局から説明</p>
<p>事 務 局</p> <p>会 長</p>	<p><b>5 協議等</b></p> <p>(1) <b>正副会長の選任について</b> ・会長及び副会長の選任について、事務局案として会長に平田富士男委員、副会長に藤原悟委員を提示し承認された。 《平田会長あいさつ》 会長にご推挙いただいたため、これから2年間務めさせていただく。前期は西脇市自治基本条例に基づく施策の検証という難しいテーマであったが、今回は委員の皆様とともに、西脇市のまちづくりがどうあるべきかを議論したい。委員の皆様には、難しい意見ではなく、市民感覚でご発言いただき</p>



<p>会 長</p>	<p>からの質疑はないか。</p> <p>◇質疑なし</p> <p>この制度については、事業の在り方も含めて、今後この審議会で議論を進めていくので、今日は概要を理解してもらえたらよい。</p>
<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>会 長</p> <p>会 長</p> <p>事務局</p> <p>会 長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>(5) 年間スケジュールについて</p> <p>・事務局から資料4「令和4年度西脇市まちづくり推進審議会スケジュール(案)」に沿って概要を説明</p> <p>今年度は4回の審議会を予定している。本日の審議会で市民主体のまちづくり活動の活性化方策について諮問をさせていただき、8月頃に予定している第2回では、現在のまちづくり活動補助制度の課題などをお示しして審議をお願いしたい。第3回の会議で活性化方策について審議いただき、第4回で答申をいただき、また進捗状況をみながら、次年度に向けた意見交換もお願いしたい。参考までに審査部会と庁内調整のスケジュールも記載している。</p> <p>市長からの諮問に対する答申を令和4年中に行うことを目標に審議会を進めるというスケジュールをご提案いただいた。</p> <p>このスケジュールに関して、質疑等はないか。</p> <p>◇質疑等なし</p> <p>審議会の開催時間は19時から21時で固定なのか。</p> <p>今までこの時間帯ですることが多かったが、開催時間の変更は可能である。</p> <p>他の委員の方はこの時間でいいのか。</p> <p>◇意見等なし</p> <p>市民提案型まちづくり事業について、申請できる団体の要件として、法人格でないといけない等定めはあるのか。</p> <p>特に法人格の有無は問わず、5人以上の西脇市在住、在勤、在学の方がいらっしゃるグループであれば応募ができる。</p> <p>この補助事業の交付回数の制限として、同一事業であれば3回まで申請できるということであるが、申請される団体は、3回全て申請されているのか、若しくは途中で自主運営に切り替えされているのか、また3回の補助を受けた後活動を継続されているのか、そのようなことを次回の審議会でもいいので教えていただきたい。</p> <p>全てを把握できてはいないが、概ね3年間申請されている団体が多い。委員の方が所属されている「しばざくらフルール」さんや「西脇未来予想図の会」さんも、初期の頃はこの補助制度を活用いただいて活動を進められていた。その後、市として継続すべきであると判断した事業については、委託事業として活動いただいている。詳細資料は今後の審議会</p>

<p>委員長 事務局 委員長 事務局 委員長</p>	<p>ご提示する。</p> <p>活動を頑張られている団体が多ければ多いほど、西脇市がよくなると思うので、今後も補助事業を続けていただきたい。</p> <p>今日のところは正確な数字はわからないが、活動を長く続けられている団体もあれば、そうでない団体もあるということに理解した。事務局としては、継続的にこの事業を活用して、いろいろな団体が活動を続けてほしいという思いでよいのか。</p> <p>その通りである。先程申し上げた申請回数の制限についても、将来的にはその団体が、補助金がなくとも活動できるような体制の構築や市からの委託事業への移行を視野に入れて、末永くまちづくり活動を続けていただきたいという思いをもって取り組んでいる。</p> <p>市民提案型まちづくり事業などまちづくり活動への補助事業の広報はどのようにしているのか。</p> <p>広報については、議会からも指摘を受けている部分ではあるが、市の広報誌やホームページに掲載して公募している。この方法が一番効果が高いのではないかと考えている。そのほか、まちづくり活動について市民の方から相談があった場合に紹介している。今後、この審議会でどのようなPR方法がいいのかもご意見いただきたい。</p> <p>前期の審議会でも、市側が発信した情報が市民に届いているかの検証が必要であるという話もあった。市側は情報発信したつもりでも、市民には届いていないということも多くあるようなので、どのようにしたら市民に届くのかということについても、今後議論していきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p><b>6 その他</b></p> <p><b>(1) 参画と協働に関する意見交換</b></p> <p>協議事項については予定していたものは終了したので、参画と協働に関する意見交換を進めていきたい。せっかく委員の皆様には今日初めてお集まりいただいたので、自己紹介以外にも一言思いなどを発言いただきたい。</p> <p>その前に「まちづくり」という言葉について考えてみたいのだが、思えば昔は「まちづくり」という言葉は、そこまで一般的な用語ではなかった。自分達の村は自分達の手で守っていた。しかし、いつの間にかだんだんと「まちづくり」は行政にしてもらおうものという感覚が強くなってしまったように感じる。しかし、この意識が大きくなればなるほど、すべてが行政任せになってしまう。</p> <p>委員の方のご挨拶のなかで、このような場で意見を述べるのは慣れていないなどのご発言があったが、是非遠慮なさら</p>

	<p>ずにご発言いただきたい。</p> <p>委員の皆様までもが、ものを言わなければ、ますます行政任せのまちづくりになってしまうことを心配する。行政にもものを言うのは、クレーマーのように受け止められるのでは、と遠慮されるのかもしれないが、もの言う市民とクレーマーは違う。クレーマーとは、自分の損得の観点だけから行政にもものを言う人のことであり、行政にとっては耳の痛い話でも、みんなのためになることを言うのは、クレームではなく、もの言う市民の意見である。</p> <p>本日お集まりの委員の方は、まちづくりへの意見や関心をお持ちの方であると思うので、日頃からみんなのまちづくりに関して思っていること、感じていることを発言していただきたい。</p> <p>そのような意見交換がまちづくりの第一歩になると思う。今日は第一回目であるから、西脇市のまちに対する思いや理想に関して意見をいただき、今後の議事運営の参考にしていきたい。</p>
委員	<p>会長が話されていたように、子どもの頃は「まちづくり」という言葉はなかったように思われる。私が子どもの頃は、子ども会、青年団、消防団、婦人会、老人会など様々なコミュニティがあったが、今は全国的に少子高齢化が進み、都市部では、PTAや子ども会が無くなっている所もあり、コミュニティが減っていつている。「まちづくり」は、様々なコミュニティが生まれることが重要だと思う。私たちが関わっていくことで、これから西脇が全国モデルのようになればいいと考えている。</p>
会長 委員	<p>人々が集って、そこにコミュニティが生まれるきっかけが必要であるが、今はそのきっかけが少なくなっている。</p> <p>私が子どもの頃は、いろいろな場面で、近所の方に注意されることがあった。当時は煩わしさを感じていたが、今考えるとそれは近所の方に見守られていたということがわかった。田舎の良さはそういうところであると思う。私は、西脇を出て、都市部で就職、結婚して子どもを授かったが、都市部で子育てをすることに不安があった。西脇に帰ってきたのは、大きな公園も多いし、自然にも触れられるので、子育てがしやすいと思ったからである。西脇市には、都市化を進めるのではなく、自然を活かしたまちづくりを期待している。ここでしか体験できない環境が、子どもたちの成長に適している。</p> <p>都市部に出ることは、外を知るという意味で素晴らしいことであるが、西脇へ帰る人が少ないのは仕事に関する不安が大きな要因だと思う。西脇では面白い仕事をしている人が多</p>

<p>委 員</p>	<p>く、それを子どもの頃に知る事ができれば、将来の選択肢が増えることにつながるため、西脇でできる仕事を知る機会を設けることができれば良いのではないかと思う。</p> <p>私は子どもが大事だと考えている。子どもが地域社会に溶け込み、のびのびと生活させてやりたいというのが親の願いである。子どもと一緒にこの土地で多くのことを経験することが、親の成長にも繋がり、祖父母と一緒に参加することで、様々な世代の交流が生まれる。地域の活性化には、お店が増えるなど便利な環境になることも大切だが、現在地域にあるものを再度認識してもらい、後に思い出に残ったり、将来の力になったりするような地域にしていきたい。子どもの頃は何も感じていなかったが、都市部に出て、帰ってきたときに自然がきれいだと感じた。やはり生まれ育ったところの環境が、大きくなってからもずっと残っているのではないか。そのような経験をしている人達が一緒になり、自然発生的にいろいろなアイデアが出てくることを期待している。地域を愛している人たちの取組みで、地域は変わっていけるのではないか。</p>
<p>会 長</p>	<p>西脇に戻って子育てをしたいという潜在的なニーズが多くあることを感じた。また、西脇以外で育った方や都市部で育った方で、同じように感じている人も多いのではないかと思う。そのようなニーズをどう受け止めるかが、活力あるまちづくりの考えどころかもしれない。</p> <p>しかし一方では、知らない人を地域に受け入れるということに抵抗感があるところもあろうかと思う。そこをどう解消していくのか、何らかの仕組みや取り組みが必要かもしれない。</p>
<p>委 員</p>	<p>この会議に来る前に、西脇でメインになるものを考えたが、何も思いつかなかった。西脇でメインになるものを作られたら、若い人も外に出ず、また戻ってくる人も増えるのではないかと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>少し前に、環境のいいところに住みたいが、住める土地が見つからないという人がいた。自分の家の近くは自然に囲まれており、自分の子どもであれば家を建てられるが、調整区域のため、住めない人がいる。町を活性化するには、住むところを増やしていかないといけないと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>自分の家のまわりも、調整区域等の理由で新しい家を建てにくく、自分の子は市外で家を建てた。環境のいいところに家を建てられるような運動をしていかないといけない。制度が時代の変化についていけないように思う。昔の古い縛りのせいで、同じところで足踏みをしている。人の価値観も</p>

委員	<p>変わっている。知識を得るだけではなく、人間的な勉強をしていかなければならない。</p> <p>子育てサービスと子育て支援の違いは何かと考える。物質や金銭的に支援することは、若い世代には非常に助かることだとは思っている。しかし、それだけでは子育てをしていくなかで、孤独を感じずに子育てできないと思う。保護者にしてもらって当たり前と思わせるのではなく、家庭の教育力や人とのつながりの重要性を伝える場面が必要だと思う。子どもが、こども園などで集団生活を経験するのと同じように、保護者も親としてそのようなところに入って初めて、保護者としての集団生活を経験する。わからないなかで、過剰なサービスを受けてしまうと、それが当たり前になってしまう。人とのつながりの重要性や自分のことは自分でやることを伝えられる拠点や仕組みができると、子育てと仕事を両立できる家庭が増えていくのではないかと思う。</p>
委員	<p>私が住んでいる町は、高齢化率が48%になっている。私が畑から帰ってくると、必ず「なにしよっちゃったん」と聞かれ、本当に煩わしい。この煩わしさが、疲れたときであれば「ホッとする」に変わる。ものは捉えようで、いいところに住めているのではないかと思う。私のまちづくりの基本は、すべて公平にすることは難しいが、不公平感だけはなくしたいということ。そのためには、情報を開示することが大事である。今日あったことをその方へ伝えることで、その人も見捨てられていないと感じ、ホッとされる。西脇市が活性化するのも大事であるが、このようなホッとする空間も残していきたい。ただそれだけではいけないので、子どもの成長に合わせたまちづくりもしていかなければいけない。</p>
委員	<p>西脇は街灯が少なく暗い。市内で交通事故も起きている。都市部から帰ってきた時に、西脇は環境が良くなっていると感じるまちづくりをしてほしい。都市部では、身近な場所に子どもが遊べるような場所が整備されているが、西脇ではそのような場所が全くないので、そのような整備もしてほしい。</p>
会長	<p>各委員から様々なご意見をお聴きできてよかった。次回以降の審議会も、活発な意見交換をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(2) 今後の予定について まちづくり活動審査部会や第2回まちづくり推進審議会の開催日程について説明</p>
問合せ先	<p>都市経営部まちづくり課</p>